

第3回 藤田湘子しょうし記念小田原俳句大会 応募用紙（中学校用）

藤田湘子（ふじた しょうし）は大正15年、小田原に生まれました。16歳のとき、ある満月の夜に、小田原城のお濠の桜のつぼみが寒さの中で膨らみ始めているのに心を動かされ、何か表現力を身につけたいと俳句を志しました。平成17年に亡くなるまで、数多くの俳句を作るとともに、多くの弟子を育てたり、わかりやすい俳句の本を書いたりして、俳句の世界で活躍しました。

代表作 愛されずして沖遠く泳ぐなり

「泳ぐ」という夏の季語を使った湘子26歳の俳句です。さまざまな悩みや孤独感をふり払うかのように、ひたすら遠くへと泳ぐ姿に、青春のほろ苦さや純粋さがかさなってくる名句として知られています。小田原市南町の小田原文学館には、この俳句の碑があります。

俳句は短い中にも多様な感動を取り込むことができます。皆さんもぜひ作ってみましょう。

俳句の基本

季語（その季節の言葉）を一つ入れる

季語の例：【8～10月（旧暦秋）】爽やか、秋風、秋晴れ、名月、いわし雲、運動会、月見、稲刈、秋祭、木の实、柿、栗、さんま、虫の音、渡り鳥、コスモス、すすき、紅葉、どんぐり、金もくせい、银杏散る など。

【11月～1月（旧暦冬）】寒し、冬至、木枯し、霜、雪、冬景色、マフラー、ストーブ、スケート、おでん、落葉、枯木、短日、冬休み、おでん、かき、白菜、大根など。
※季語を調べるには「歳時記」という本が便利です。

五文字、七文字、五文字のリズムでつくる

五・七・五が基本ですが、六・七・五や、七・五・五の俳句もあります。リズムよく読めることが大切です。

「や」「かな」「けり」を使うのは一回だけ

俳句でよく使われる「○○や」、「うかな」、「うけり」は「切れ字」といい、印象を強めたりする効果があります。使う場合は、一句の中で、どれか一つの切れ字を一回だけ使うといいでしょう。

俳句を作ったらこの紙に書いて、切り取って応募してください。（ひとり一句）

優秀作品は令和4年4月16日に小田原市民ホール（三の丸ホール）で表彰されます。

【応募先】 小田原市立中央図書館（〒250-0875 小田原市南鴨宮1の5の30）

【電話】 0465（49）7800 【応募締切】 令和3年11月30日（消印有効）

※小田原市ホームページの電子申請からも応募できます。



応募作品

（特別な読み方をするときは、ふりがなをふってください。）

名前																				
学校名	中学校																			
	学年																			
自宅住所																				
	電話番号																			